

『報徳のおしえ』

とともに



問合せ先

教育委員会社会教育係 ☎579・5801

令和3年度 「報徳の教え」講演会

講演テーマ 「報徳」からはじまる豊かな未来創造

令和3年7月29日(木)二宮尊親100回忌の法要が行われ、尊徳翁7代目子孫であります中桐万里子さんが、来町された機会に、える夢館はるにれホールにて記念講演が行われました。

当日は、コロナ禍でもあり約70名の町民の皆さんが来館され、「報徳」からはじまる豊かな未来創造」をテーマに講演会が行われました。

講演の中で中桐さんは、「報徳訓」を紹介しながら、「最後の一行である『年々歳々報徳を忘るべからず』が尊徳のもつとも言いたい部分です」と解説。

これは、「受けてきた徳にどうやって報いるかを考えて、自ら動きだしてほしい」と、お話されました。また、どんな立場の人でも、生産する力や創造する力があるとの説明。「村人一人一人が主役というのが尊徳の考えです。『名を残さず、行いを残せ』が遺言とも言われています」と話されました。

今月号から講演の内容について、広報「とよころ」に「報徳のおしえとともに」で連載で紹介していきます。

《中桐万里子氏講演より》

中桐でございます。本日は、素敵なご縁をいただき心からお礼を申し上げます。コロナ禍ではありますが、皆さまと直接お顔を拝見しながら、時間を一緒に過ごしていただくことは、本当に掛け替えのないことと改めて強く感じています。

午前中に、125回目の探検記念日。まさに、この土地からはじまったという先祖たち先輩方の思いを引き継ぐ記念日と、また尊親から五代目の玄孫となりますが、尊親の100回忌の法要ということで、皆さまに大変な思いを尽くしていただいていることに、心から感謝をいたしております。この豊頃の町とは、先祖共々お世話になりながら今日があります。心より感謝を込めてお話ができればと思っております。

今日は「報徳のおしえ」講演会ということで「報徳」というこのキーワードから始まる、豊かな未来創造について考えてみよう」ということを大きなテーマにしました。

私は尊親から5代目、尊徳からは7代目に当たりますが、いったい彼らが考えた、そして実践し行動した「報徳」は、今の私たちにどんなふうに関係するの

か、そしてまた、私たちだけではなく未来、次の世代にやってくるその未来に、いったいどんなふうに通っていくことができるのか、そんなことを考えようと思っております。いつも私は、このような話からスタートいたします。

二宮金次郎(二宮尊徳) 実際には「二宮タカノリ」と言いますが、この人は何をした人かという点、意外とこの豊頃の地では違うかもしれませんが、知られていないこの人物。

彼は、今から200年ほど前に生きた(農業人)農民だった。しかし、この200年ほど前というのは、自然災害や異常気象で、国が大変困っていた時代。そのような中、農業がダイレクトにダメージを受けながら復活し、再生し、蘇ろうとしていた時代だったとも言えます。

金次郎自身は、まさに自分の田畑を耕すということだけではなく、被災地となった町の復興再建、その蘇り、立ち上がり、そのようなものに人生をかけていた人物。

生涯70年という人生でしたが、その中では、600以上の町と一緒に活動した、というふうに記載されています。この600という猛烈な数字から、私たち家族は伝えてきました。この金次郎



二宮尊徳7代目子孫 中桐万里子氏

像を見るたびに、ばあちゃんは指を差して言ったわけですよ。「大事なものはこの場所だよ。それは小さく一歩前に出ている足、この足をとって大事にしている」と祖母は言ったのです。「この像のメッセージは、それはどんな時も挫けず、諦めず、一歩でもいいから自分の足を前に出すこと。大きなことができない時でも決して立ち止まらず、決して腐ってしまわず、自分自身の目の前の一歩をとにかく重ねていくこと。そのことがとつても尊く、とても大切なことだよ」と教えてくれたのです。

まさに、コロナ禍という中では、私たちの前に大きな壁が立ちました。できないことだらけの時間になったかもしれませんが、それでも諦めて立ち止まってしまう、腐って立ち止まってしまうのではなく、今の自分のできる小さな一歩は何か、そんなことを考えさせられる。私自身にとっては、まさにこのメッセージは、実感を伴って感じてしまったと思うわけです。《次号へつづく》

二宮尊親の村づくり 豊頃町二宮報徳館

旧二宮小学校は平成15年に「豊頃町二宮報徳館」として生まれ変わりました。現在では、郷土資料を含めた貴重な二宮尊親の資料を所蔵・展示する資料館となっています。

▽豊頃町二宮報徳館

社協だより

役場だより

▽「報徳のおしえ」とともに

社協だより

役場だより



実寸大の二宮尊徳像



移民団幟旗(複製)



尊親が愛用したコート



金次郎像

社会教育の推進と地域社会の生活文化の向上を図るため、二宮報徳館は設置されました。豊頃町の郷土資料をはじめ、入植した当時の地図、尊親が愛用していたコートなどが展示されています。なかでも「報徳分度論 尊親の手控 え帖」や尊親直筆の「報徳訓額」などから、「報徳のおしえ」が開拓当時の大切なおしえであることをうかがい知ることが出来ます。この報徳館を紹介するリーフレットを教育委員会や図書館に設置してありますので、ご自由にお持ち帰りください。



報徳館内部の様子

二宮報徳館を見学される際は、豊頃町教育委員会(579・5801)に問い合わせください。

豊頃町二宮報徳館(旧二宮小学校) 豊頃町二宮2460番地 ☎574・31126 開館 4月~11月まで 休館日 不定期